

日本人大学生の英語学習の 動機づけを高める授業内要因間の 相関関係とその変容*

佐 竹 幸 信
鈴 木 穰

1. はじめに

第2言語(L2)、及び外国語学習への動機づけを扱った研究は数多い。しかしこれらの研究を詳しく吟味すると、学習意欲を増す契機が「日常生活」にも存在することをあらかじめ想定しているケースが多い。確かにこれも事実であろうが、日本国内の英語教育の実情に目を向けてみると、最初から動機づけが高かったり、英語学習に関する特異な経験を積んでいたりする一部の学生を除き、多くの日本人学生が現在でも学校の授業以外で英語に触れる機会はほぼ皆無であり、したがって彼らの英語学習への意欲は、少なからず彼らが授業内で体験した内容に左右されていると言えるのではないだろうか。実際筆者らが教える日本人大学生の多くは、授業以外で英語に触れる機会はほぼ皆無だと述べており、もし彼らの学習意欲を高め得るとしたら、授業内で彼らのやる気を触発する何らかの手立てを考えることが最も現実的な方法だと考えられる。本研究では、参加者が自身の英語学習意欲を高めた、或いは高めそうだと思う授業内要素についてアンケート、及びインタビュー調査を実施し、その要素の背景にある潜在的要因、及びそれらの要因間の関係性を探り、さらにそうした要因間の関係性が、高校までの時期と大学との間でどういった変容を見せるかについても考察する。

* 本研究は令和2年度上武大学三俣特別研究費(第19-B01号)の助成を受けたものである。